

「富士見の歴史」特別講座 <2013・歴史散歩>

～彰義隊・上野戦争のゆかりの地を訪ねる～

平成25年10月27日(日) 8:30~14:30

報告： H・S

快晴の散歩日和となり、何よりの「おもてなし」が出来ました。迷走台風27号とダブル台風28号が日本列島を狙っており、木曜日(10/24)の段階では、歴史散歩を中止することも頭の中にはありました。いろいろな人の意見を聞いて、土曜日(10/26)の午前中に判断することになりました。結果、本当に良かったです。

さて、歴史散歩は25名の参加申込がありましたが、実参加者は21名でした。午前8時30分に「みずほ台」改札口に集合し、遅刻者もなく順調なスタートが出来ました。散歩の道中では、行方不明など若干の心配事は発生しましたが、大きなトラブルもなく楽しく散歩することが出来ました。

10:00分前に、台東区のボランティア・ガイド(金氏、藤野氏の2名)と西郷隆盛像の前で会い、21名を2グループにして歴史散歩がスタート。



<この旗に集まって、散策開始!>

*** 以下のページからは、散歩の葉にスナップ写真を入れたものです。***
<時間の都合で止まることなく進んだ場所がありましたので、下見の時の写真も使いました。>

散歩の前に「上野の山」と「上野戦争」を、チョット思い出しましょう

※この欄は、受講生の桐生氏から提供して頂いた資料とインターネットで知り得た情報とを並べて見ました。内容の信憑性などに疑問がありましたら、ご容赦願います。※

◇◇◇ 上野の山と上野公園 ◇◇◇

寛永2年(1625)、3代将軍家光は江戸城の鬼門(東北の方向)を守るため、天海僧正に命じ、祈祷寺を建てさせました。京都御所の鬼門を守る比叡山延暦寺にならい、東の比叡山という意味で東叡山とし、寺名は寛永寺(天皇から年号を使うことを許された)としました。上野の山は寛永寺が創建されると、山の下にも町がつくられ、門前町として賑わいました。

しかし、上野の山いっばいに広がった寛永寺の伽藍は、幕末に起こった彰義隊の上野の戦い(1868)により大部分が焼失してしまいました。明治政府により、日本で最初の西洋式都市公園として整備され、上野の山は、寛永寺の境内から上野公園となりました。

◇◇◇ 彰義隊・上野戦争 ◇◇◇

・・・慶応4年(1868)の結成から戦争までの動き(日付は旧暦)・・・

2/11 徳川慶喜は、京都、鳥羽伏見で戊辰戦争勃発のあと、恭順の意思を示す。これに不満をもった幕臣の本多敏三郎と陸軍調役の伴門五郎が檄文を発す。

2/12 徳川慶喜は、上野山寛永寺内の「大慈院」で謹慎。一橋家ゆかりの者ら17名が雑司ヶ谷の酒楼「茗荷屋」に集まり、徳川慶喜の復権や助命について話合う。

2/21 21日の会合には、一橋家に仕える幕臣の渋沢成一郎を招いただけでなく、幕臣以外にも有志を求めたため、諸藩の藩士や旧幕府を支持する志士までもが参加している。その結果、会合は組織へと変化し尊王恭順有志会が結成された。

2/23 浅草の東本願寺で行われた結成式では、彰義隊と命名し、血誓状を作成した。頭取には渋沢成一郎、副頭取には天野八郎が投票によって選出される。

.....

4/ 3 本願寺から寛永寺へ拠点を移動。

4/11 江戸城が無血開城し、徳川慶喜が水戸へと退去。

慶喜が水戸へ移ったのちも、

彰義隊は、寛永寺貫主を兼ね同寺に在住する日光輪王寺門跡公現入道親王を擁して徳川家霊廟守護を名目に寛永寺を拠点として江戸に残り続けた。渋沢成一郎は慶喜が江戸を退去したため、彰義隊も江戸を退去し日光へ退く事を提案したが、天野八郎は江戸での駐屯を主張したため分裂。

※渋沢成一郎は、同志とともに飯能の能仁寺で「振武軍」を結成し独自に活動を展開した。⇒ 第4回講義(6/22)「振武軍と飯能戦争」

5/ 1 新政府自身が彰義隊の武装解除に当たる旨を布告。軍務局判事として江戸に着任していた大村益次郎の指揮で武力討伐が決定。

.....

5/14 彰義隊討伐の布告が出される。

5/15 未明、大村益次郎が指揮する政府軍は、寛永寺一帯に立てこもる彰義隊を包囲し、雨中総攻撃を行う。1日で彰義隊を撃破、寛永寺も壊滅的打撃を受けた。記録上の戦死者は彰義隊105名、新政府軍56名といわれている。

◇◇◇ 大村益次郎の指揮による討伐計画 ◇◇◇

・江戸市街へ火災が及ばないよう雨季の到来を待って旧暦5月15日(新暦7月4日)を攻撃の日と定め、江戸市中に高札を立てて予告した。

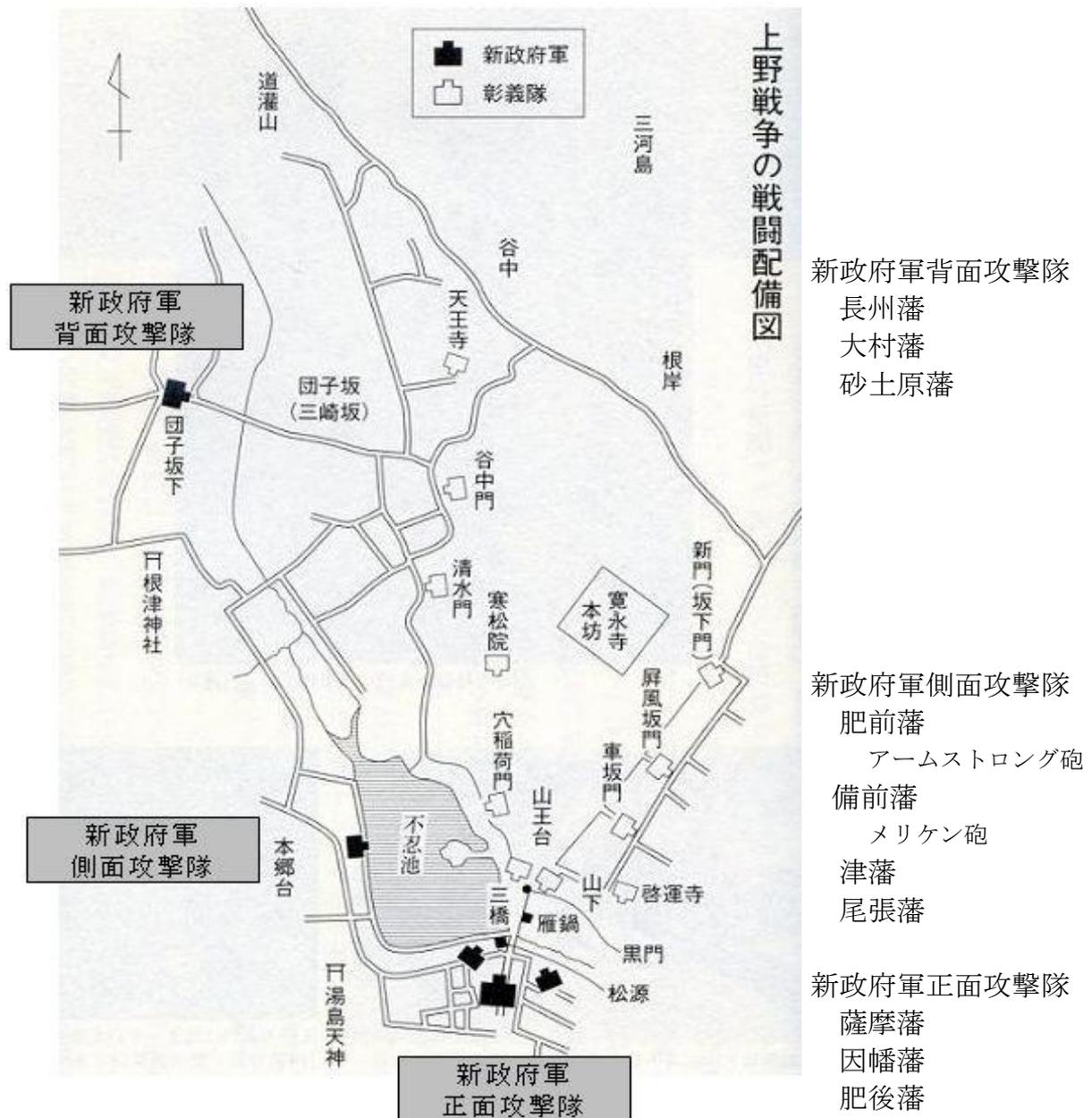
・攻撃面を限定して、彰義隊の退路を開放する布陣をとった。その退路は江戸市街の中心部からそれるように考慮されていた。⇒戦闘配備図でみると東北側が退路

※堂々と攻撃を予告された彰義隊では密かに上野から逃れる者も多く、一時には3000人の陣容も、当日は千数百人程度であったという。

・質・量とも圧倒的な新政府軍であったため、敗れた彰義隊は用意された退路を辿って逃走したが、多くが捕らえられている。

◇◇◇ 上野戦争の戦闘配備図 ◇◇◇

・「上野戦争戦闘配置図」出典『彰義隊戦史』／菊池明著『上野彰義隊と箱館 戦争史』より、としてインターネットで開示されていた地図に説明を入れる・・・



平成25年10月27日(日)

第36期・富士見市民大学 「富士見の歴史」特別講座

台東区ボランティア・ガイド

～彰義隊・上野戦争のゆかりの地を訪ねる(午前の散歩コース)～

【彰義隊・上野戦争のゆかりのスポット地】

◆彰義隊の墓

慶応4年(1868)大政奉還をして上野寛永寺に蟄居した慶喜の助命嘆願のために一橋家当主時代の側近家来の小川相太すぎた(のち興郷おきさと)らは同志を募りました。そこには徳川政権を支持する各藩士をはじめ、新政府への不満武士が集まり、「彰義隊」と名乗り、やがて上野の山を拠点として新政府軍と対峙しました。しかし、旧暦5月15日の上野戦争は、武力に勝る新政府軍が半日で彰義隊を壊滅させました。彰義隊士の遺体は上野山内に放置されましたが、南千住円通寺の住職仏磨らによって当地で荼毘に付されました。

大墓石は明治14年(1881)に元彰義隊小川興郷(相太)らによって造立。彰義隊は明治政府にとって賊軍であるため、政府をはばかりて彰義隊の文字はありませんが、旧幕臣山岡鉄舟の筆による「戦死之墓」の字を大きく刻む。



◆清水観音堂

天海僧正が京都の清水寺の観音堂を模して寛永8年（1631）背後の摺鉢山すりばちやまに建てました。また、御本尊も清水寺より恵心僧都えしんそうず作の千手観音像を迎え秘仏としてお祀りしている。元禄11年（1698）に焼失したのち、この地に再建されました。本堂正面を舞台づくりにし、ここから眺める不忍池は、比叡山から眺める琵琶湖に見立てられています。彰義隊の上野山戦争の戦火、関東大震災、東京大空襲とを避け奇跡的に残っている貴重な建物です。



◆上野大仏

正面の丘は、かつて「大仏山」と呼ばれ、丘上にはその名のとおり大きな釈迦如来座像が安置されていました。度重なる罹災により損壊し、昭和47年（1972）丘陵上の左手に壁面を設け、顔面部のみがレリーフとして保存されました。

また、同じく丘陵上には、昭和42年（1967）に「パゴダ」（仏塔のこと）が建設され、薬師三尊像が安置されています（江戸末期までは、東照宮境内にあった薬師堂の本尊）。
ついで情報あり（P12）参照



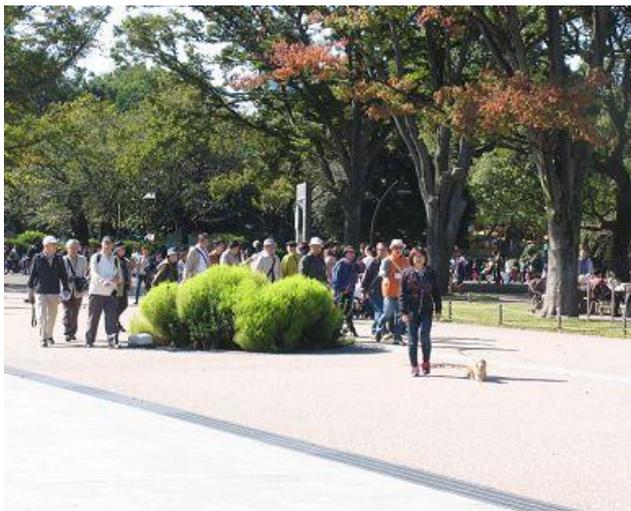
◆上野東照宮

徳川家康、徳川吉宗、徳川慶喜の3人を祀る上野東照宮。寛永4年（1627）藤堂高虎が上野の高虎の敷地内に創建しました。元和2年（1616）、危篤の家康から自分の魂が末永く鎮まる所を作ってほしいと高虎と天海に遺言されたという。現在の社殿は慶安4年（1651）に、徳川家光が改築したものです。

金箔をふんだんに使い、大変豪華であったことから「金色殿」と呼ばれます。当時は東叡山寛永寺の一部でしたが、戦後神仏分離令によって寛永寺から独立しました。その後、戦争や震災などの災厄にも一度も倒れることなく、江戸の面影をそのまま現在に残す、貴重な文化財建造物です。



・・・上野東照宮から黒門への移動中・・・



◆寛永寺旧本坊表門（黒門）

黒門は寛永寺本坊の表門として現在の東京国立博物館正門の位置に建てられました。上野戦争では、本坊の他、多くの伽藍が焼失した中で戦火を免れました。今回の修理（平成22年11月から保存修理を開始し平成25年20131月に終了）では、屋根部分を解体して組み直す半解体修理が施され創建当初の姿に復原されましたが、戦争の際にできた鉄砲や砲弾の弾痕は重要な歴史の証拠としてそのまま残されています。

門の構造は切妻造り本瓦葺、潜り門のつく薬医門やくいもんです。薬医門とは、本柱が門の中心線上から前方にずれ、本柱と控柱を結ぶ梁の中間上部に束をのせ、その上に切妻屋根を乗せた門をいう。



◆寛永寺

寛永2年（1625）に創建。開基（創立者）は徳川家光、開山（初代住職）は天海、本尊は薬師如来。徳川将軍家の祈祷所・菩提寺であり、徳川歴代将軍15人のうちの6人が寛永寺に眠る。17世紀半ばからは皇族が歴代住職を務め、日光山、比叡山をも管轄する天台宗の本山として近世には強大な権勢を誇っていました。

最盛期（江戸時代後期）の寛永寺は寺域30万5千余坪、寺領11,790石を有し、子院は36か院に及びました（現存するのは19か院）。現在の上野公園のほぼ全域が寛永寺の旧境内です。そして、今の上野公園の2倍の面積の寺地を有していたという。

上野の山は、慶応4年（1868）、上野戦争の戦場となり、根本中堂をはじめ、壊滅的打撃を受けました。明治維新後、境内地は没収され、明治6年（1873）には旧境内地が公園用地に指定されるなど、寺は廃止状態に追い込まれました。

明治8年（1875）、もと子院の場所に川越の喜多院（天海が住していた寺）の本地堂を移築して本堂（中堂）とし、ようやく復興しましたが、寺の規模は大幅に縮小しました。たとえば、現在の東京国立博物館の敷地は寛永寺本坊跡であり、博物館南側の大噴水広場は、根本中堂のあったところです。



<寛永寺 記念撮影>

◆浄名院

創建は寛文6年（1666）。もとは寛永寺三十六坊の一つで、浄円院とっていましたが、享保8年（1723）に浄名院と名をかえ、独立しました。ただし、寺の山号は今でも「東叡山」。この寺院には約2万体を数える石の地蔵が並んでいます。本堂に向って左側正面が、江戸六地蔵の第6番目に当るお地蔵さん。

旧暦8月15日には「へちま供養」が行われ、せき、ぜんそくで悩む人達がお参りに来ます。

・・・寛永寺、浄名院から慶喜の墓への移動中・・・



◆慶喜の墓

歴代の徳川将軍は仏式で葬儀を行い、家康、家光を除く歴代将軍は寛永寺か増上寺の徳川家霊廟に葬られています。

ただ、将軍職を返上した慶喜は、遺言（朝敵とされた自分を赦免した上、華族の最高位である公爵を親授した明治天皇に感謝の意を示すためとも言われる）として生家である水戸徳川家に準ずる神式を望み、徳川将軍家の墓所には入らず、墓も谷中の地を選び、隣には夫人美賀子の墓、背後には晩年の側妾たちと奥向き女中頭の小さな墓が控えています。徳川将軍の墓で神道式は慶喜のみです。墓は円墳です。



◆天王寺

文永11年（1274）に創建。開基は関小次郎長耀ながてる、開山は日源、本尊は阿弥陀如来。寛永18年（1641）徳川家光・英勝院・春日局の外護を受け、約3万坪の土地を拝領し、将軍家の祈祷所となりました。

天王寺は、上野山の中心にあり、彰義隊の本部に使用されたことから、まともにその戦争の戦禍を受けました。天王寺廊下柱に残る刀痕も、この戦争下に誕生したとの事です。

実は、谷中霊園のほとんどの土地は、かつてこの天王寺の敷地でした。明治維新のとき、政府に召し上げられ大部分が公共墓地となったそうです。

※谷中五重塔・・・寛永21年（1644）五重塔建立／明和9年（1772）明和の大火により焼失／寛政3年（1791）大工・八田清兵衛が五重塔を再建／明治25年（1892）小説『五重塔』（幸田露伴）八田清兵衛をモデルとする／昭和32年（1957）放火心中事件により焼失



◆羽二重団子

文政2年（1819）の創業以来、一貫伝承の羽二重だんごを製造し、江戸時代より今に残る東京名物として有名人等顧客に広く販路を有しています。ホームページによると、「敗走した彰義隊士は、芋坂を駆け下り、当店に闖入。刀、槍を縁の下に投げ入れ、百姓の野良着に変装して、日光奥羽方面へ落ち延びた」とのこと。



◆本行寺

大永6年（1524）大田道灌公の孫、大田大和守資高公によって、江戸城内平河口に建立され、大田家代々の菩提寺として帰依をうけた（宗派は日蓮宗に属している）。

江戸時代に神田・谷中を経て、宝永6年（1709）、現在地に移転した。頻繁に移転しているのは大田・北条・徳川と江戸における中心勢力移行の影響を受け当山も存続に苦心をしていることが窺えます。

当時この地を選ばれたのは、ここが太田道灌公ゆかりの地（道灌丘）であり道灌公が築いた砦跡（物見塚）があって建立にふさわしい処とのこと。また、ここは景勝の地であることから「月見寺」とも呼ばれていました。

※午後の散歩との関連で、雪月花の寺をまとめて置きます。

雪見寺・・・浄光寺

月見寺・・・本行寺

花見寺・・・青雲寺、修性院しゅしょういん、妙隆寺（現在は廃寺、修性院と合併）

◆経王寺

明暦元年（1655）、当地の豪農冠かんむり勝平が、寺地を寄進し、堂宇を建立した事に始まり、本堂隣の大黒堂には、日蓮上人の作と伝えられる「大黒天」が、鎮守として祀られています。

上野戦争の時、敗走した彰義隊を匿ったとして、門外から新政府軍の銃撃を受け、山門の扉には今もその銃弾痕が見られます。

この資料は、受講生の内藤氏より提供された情報です。

2013.8.31

東京の痕跡

戦時雨が降る台東区の上野公園。お山の道を残響の太陽が白く照り返す中、杉の一枚板に「上野大仏」と揮毫された堂々たる看板が現れた。

「寛永寺の神田秀順大僧正の書で、昨年設置されました」。東叡山寛永寺のお堂の一つで上野大仏を管理する、清水観音堂の大多喜義隆僧番(66)が説明してくれた。そして、「けどね、立派な看板を見て、こんな所に大仏が行ってみたらお願だけ。これが本当の看板割れ！なんてね」

気さくな僧侶のジョークにベテランが黙っていた。

昔は高くて7呷?

90年前の大正12(1923)年9月1日。関東大震災の激震により、上野大仏の頭部は地面に崩れ落ちた。今は顔面が祭られるのみである。「台座を入らずに約7呷の高さがあったそうですから、山の上から顔をのぞかせていたんじゃないでしょうか。今とは景色も違ってみえたでしょうね」と大多喜僧番。

「大仏を、埋めて白し、花の雲、近所の根岸に住んでいた正

上野大仏 90年落ちの頭

災害に屈しないご尊顔

四子親(1867~1902)安置。人知れずひっそりとした年(の俳句に、満開の桜とあり)の地に、異変が起きたのは10年ほど前のことだ。

「若い人が急にお参りに来るようになり、尋ねてみると受験生」「(これ以上)落ちない大仏」。だから縁起が良いとの噂がある聞き、驚きました」と昭和15年、今度は戦時下の供出令により頭や胸体が軍需金属資源として接収された。47年、か馬やお守りを制作したところ参拝者は増え続け、近年では年間

安齋。人知れずひっそりとしたその地に、異変が起きたのは10年ほど前のことだ。

「若い人が急にお参りに来るようになり、尋ねてみると受験生」「(これ以上)落ちない大仏」。だから縁起が良いとの噂がある聞き、驚きました」と昭和15年、今度は戦時下の供出令により頭や胸体が軍需金属資源として接収された。47年、か馬やお守りを制作したところ参拝者は増え続け、近年では年間

は安政2(1855)年の安政の大地震で破壊され、修復のち関東大震災へと至る。今、手にふれることが出来るご尊顔の傷と修復の痕が、災害史を物語るよすがだ。

東日本大震災が発生した平成23年3月11日は、東京も大きく揺れたことが記憶に新しい。大多喜僧番からは、上野動物園に来ていて帰れなくなった幼児連れなど10人を一晚、お堂に泊めたという。

昭和40年代には「観光の目玉に」と地元で大仏再建運動も起きた。だが、体を奪われ傷だらけになりながらも建つこの顔こそ、災害に屈しない底力や備えを教えてくれる、大いなる徳仏の家と思える。(重松明子)

現在の頭部は、壊れた顔ははやや細面になり高さは170cmほど。身長185cmの大多喜僧番(左)。よりも小さくなった「台東区上野公園




関東大震災で頭部が落下、崩落する前の上野大仏

平成25年10月27日(日)

第36期・富士見市民大学 「富士見の歴史」特別講座

(担当) 稲植保美

～彰義隊・上野戦争のゆかりの地を訪ねる(午後の散歩コース)～

【諏訪台通りのスポット地】

「日暮里」日暮里の地名は新堀(にいほり)に始まり、文安5年(1448)の文書に「にっぽり」と出てくる。江戸時代の享保年間(1716～36)には、「日暮里」と書かれており、やがて「ひぐらしの里」と呼ばれてこの新堀台地の景勝は、雪・月・花をめぐる人々のあいだに喧伝されるようになり、武士・町人を問わずひぐらしの里を訪れることが風雅な楽しみの一つであったという。

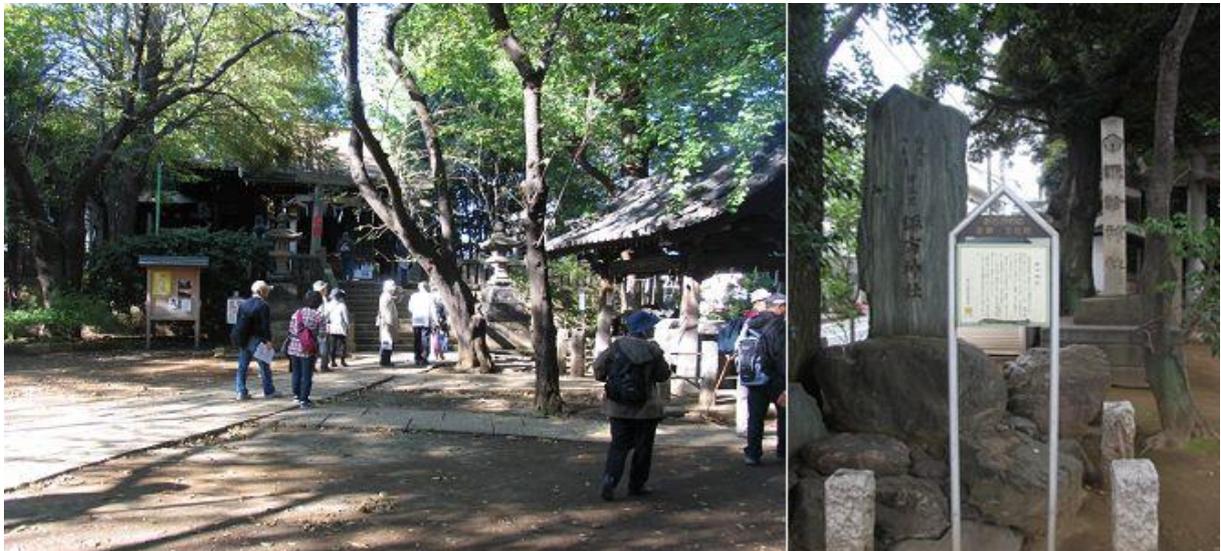


◆浄光寺(西日暮里3-4)

諏方(すわ)神社のもと別当寺であった真言宗の寺院で、境内左手に元禄4年(1691)鑄造の銅製地藏菩薩像がある。このあたり一帯は諏訪台といわれ、その境内からの雪見が有名となって雪見寺と呼ばれた。

◆諏方(すわ)神社(西日暮里3-4)

浄光寺の隣りが新堀村・谷中の総鎮守の諏方神社で、鳥居には「新堀・谷中総鎮守の扁額が掲げられている。元亨(げんこう)3年(1323)・・・元久2年(1205)の説もある・・・豊島左衛門尉経泰が信州の諏訪神社を勧請したといわれている。諏方神社から西日暮里公園と線路のあいだの坂道は、浄光寺の地藏菩薩にちなんで「地藏坂」という。



◆青雲寺（西日暮里3-6）

青雲寺（臨濟宗）は、広重の『江戸百景』にも描かれている花見寺として知られ、寛延・宝暦（1748～64）の頃、付近の寺院とともに境内に桜やツツジを植えて春の永き日の暮れるを知らないといわれ「日ぐらし（日暮し）の里」の名をほしいままにしたという。文化4年（1807）寺院が焼失し、庭園も廃園となり、明治期には恵比寿堂が創建された。境内には、道灌船繫の松（ふなつぎのまつ）の石碑がある。昔、境内の東北の崖下まで入り海であった頃、この松に船を繫いだことから、その名がおこったという。

◆道灌山（西日暮里4-7）

この一帯の高台から、日光・筑波の嶺や下総国府台（市川市）、近くは浅草・三河島などが一望のもとに見渡せたところから太田道灌の砦があったという伝説が生まれている。しかし道灌山は道閑山で、『新編武蔵風土記稿』によると、谷中天王寺と根岸善性寺の開基で、ここ高台に屋敷を構えていた豪族関小次郎長耀ながてる入道道閑（江戸太郎重長の妻の父）が道灌山のいわれと記している。上野・日暮里・飛鳥山を結ぶ台地と、国府台との間に古東京湾が広がっていた頃、この台地の縁辺に人々が住んでいたことを伝える道灌山遺跡（開成学園内）が発見されている。江戸時代には、「虫聴むしきき」の名所で、広重や長谷川雪旦などに画かれている。またドウカン草をはじめとする90種以上もの薬草が自生していたという。



※本行寺（西日暮里3-2、日蓮宗）は、月見寺として知られる。

.....
以上、散歩の葉とスナップ写真でした。

天気が良かったとはいえ、長い時間の散策ご苦労様でした。腰に据えた万歩計が、各々違った数値を示しているところは笑えるところでしたが、企画者として反省すべき点が多々ありました。主な点

- ① 散歩コースの設定者としては、スポット地がてんこ盛りで、皆さんに消化不良の散歩を強いた面があったと深く反省しております。
- ② 東京の散歩は午前中として、午後は自由行動がよかったのでは？も反省点です。

※台東区のガイド様、時間延長しての説明、誠に有難うございました。